

2014年11月～3月展示

## アーサー・ロイド絵入り英訳書と関連資料展

池袋キャンパスのいくつかの建物には、立教学院の建学に関わった方々の名前が付与されています。2012年11月に新築された池袋図書館のある18号館の名称は、「ロイドホール」で、アーサー・ロイド初代立教学院総理にちなんでいます。

立教大学図書館では、アーサー・ロイドが著した絵入り英訳書ほか数冊の著作を所蔵していますが、絵入り英訳書3冊を2014年度の図書館デジタルライブラリ資料として、電子化して公開することになりました。図書館公式ホームページ上のデジタルライブラリで、全頁を画面上で閲覧することができます。また図書館の展示スペースでは、デジタル化したオリジナル資料を含むその他のアーサー・ロイド著書と関連資料を展示いたします。

立教大学図書館

### <アーサー・ロイド絵入り英訳書（デジタルライブラリー公開資料）>

1. White Aster, a Japanese epic (『孝女白菊の詩』) / 井上哲次郎著 Arthur Lloyd 英訳  
東京：T.Hasegawa 1897 (明治30年)
2. Imperial songs (『御歌』) / translated by Arthur Lloyd  
東京：立教学院活版部 1904(明治37年)
3. A birth-day book of Japanese verse, old and new(『誕生日記念帖』)  
Arthur Lloyd, 税所敦子著 東京：審美書院 1910 (明治43年)

### <アーサー・ロイド著書>

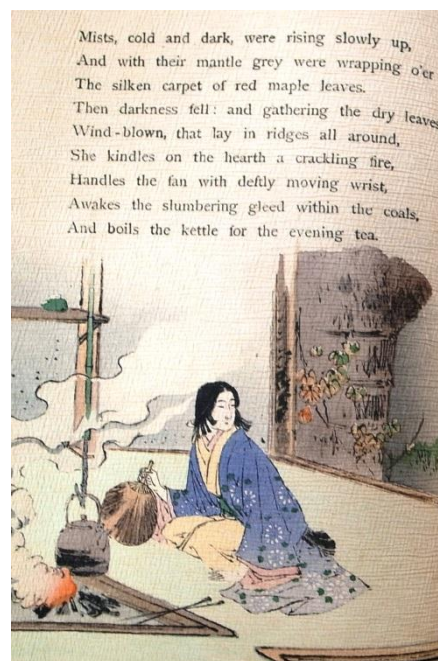
1. Every-day Japan : written after twenty-five years' residence and work in the country / by Arthur Lloyd. London: Cassell 1909 (『日常日本』)
2. The gold demon / by Koyo Ozaki ; rewritten in Eng. by A. and M. Lloyd  
Tokyo : Seibundo 1917 (『金色夜叉』尾崎紅葉著の英訳本)
3. Ko-kin seikashū : hymns new and old prepared by a committee for the use of the Nippon Seikōkwai / by Arthur Lloyd. Tokyo, : SeiKōkwi Shippun Kwaisha 1902 (『古今聖歌集』)
4. 女子英語讀本 / アーサー、ロイド, 元田作之進共著 訂正版 東京：三友書院 1908
5. The wheat among the tares : studies of buddhism in Japan / Arthur Lloyd.  
London : Macmillan 1908 (『毒麦のなかの麦：日本における仏教研究』)
6. The creed of half Japan : historical sketches of Japanese Buddhism / by Arthur Lloyd  
London : Smith, Elder & Co. 1911
7. Admiral Togo / by Arthur Lloyd. Tokyo : Kinkodo 1905

# アーサー・ロイド絵入り英訳書デジタルライブラリについて

立教大学異文化コミュニケーション学部教授 山田久美子

White Aster, a Japanese epic (『孝女白菊の詩(うた)』) は活版による文字印刷に木版刷りの挿絵を組み合わせた欧文挿絵本「ちりめん本」です。印刷済みの和紙を縮緬紙(クレープ・ペーパー)のようにしわ加工してから裁断し、絹糸で和綴りにしてあります。ずっしりと重くしなやかな感触から、絹織物(縮緬)に印刷したと誤解されることもあるようですが、その高度な印刷技術は現代では再現が難しいといわれています。フローレンツによるドイツ語訳をロイドが英訳したちりめん本として、このほかに1896(明治29)年刊行の Poetical greetings from the Far East (『東の国から詩の挨拶』) があります。

また、A birth-day book of Japanese verse, old and new (『誕生日記念帖』) は洋本の体裁で、ちりめん加工していない「平紙(ひらがみ)版」ですが、日本画の木版刷りで定評のあった審美書院から出版されました。これも広義の「ちりめん本」といえるでしょう。日本の物語や詩歌に美しい挿絵を添えた「ちりめん本」は、海外に輸出されて評判を呼びました。



一方、Imperial songs (『御歌(ぎよか)』) は和綴じの大判豪華本です。刊行の Rikkyo Gakuin Press は、築地の立教学院で1900(明治33)年にロイドが私費を投じて苦学生自活のために設立した活版印刷所です。

ロイドは英国教会宣教師として32歳で来日、59歳で亡くなるまでの間、慶應義塾、立教学校を経て、東京帝国大学でラフカディオ・ハーンの後任の英文学教授を務めるなど、さまざまな足跡を残しました。明治日本の発展をみつめ、仏教、神道、ローマ・カトリック教などに深い理解を示したエキュメニズムの先駆者、異色の聖公会宣教師といえるかもしれません。インドで英国軍人とドイツ生まれの女性との間に生まれ、ケンブリッジ大学で古典を、チュービンゲン大学でサンスクリットを学んだロイドは言語に堪能で、文学の素養を生かして日本文学、特に詩歌に親しみ、英訳して海外に紹介しました。キリスト教の布教のために来日したロイドですが、明治日本の息吹を海外に伝える重要な役割も果たしたといえるでしょう。

【立教大学図書館デジタルライブラリより】

# アーサー・ロイドについて

立教大学学院史資料センター

英国人アーサー・ロイドは、英国教会系ミッション SPG (Society for the Propagation of the Gospel, 福音宣教協会) 宣教師として 1884 (明治 17) 年に来日、10 年後の 1894 (明治 27) 年からは米国聖公会内外伝道協会 (Domestic and Foreign Missionary Society of the Protestant Episcopal Church in the USA) 宣教師として 1903 (明治 36) 年までの 9 年間に伝道事業に従事した。

ケンブリッジ大学を優秀な成績で卒業したロイドは、学士、文学修士を取得、15 か国語に通じていたといわれ、来日わずか 7 か月目には早くも日本語で説教をおこなっている。福澤諭吉から慶應義塾の教員のなかで唯一真の学者と当初から認められていたロイドは、慶應義塾で 11 年にわたり (1885-1890 / 1893-1898 / 1904) 教鞭をとった。

さらに、米国聖公会在日ミッション統括者ジョン・マキムに請われて、同派経営の立教学院で 5 年半 (1897.12 - 1903.4) にわたり学院総理を務めた。この間ロイドは、政府認可校において宗教教育を禁じる 1899 (明治 32) 年の文部省訓令 12 号問題に対し、間接的であれ学内で一定のキリスト教教育が可能であれば訓令を順守するという方針で乗り切った。その結果認可校として存続した立教は、上級学校への進学資格や徴兵猶予の特典を維持することが出来た。それと同時に、ロイドは立教における一般教育を強化する教育方針をとり、立教中学校を、訓令発布 1 年後の高等学校入学試験で受験者 (11 人) 全員が合格した唯一の学校に成長させた。受験生の半分以上が合格した学校はほかになく、これは全国で最上位の成績であった。

こうして当代日本における最大のミッション・スクールとなった立教中学校は、その後の専門学校令による立教学院立教大学設立 (1907 年) への道を切り開く、大きな要因ともなったのである。

ロイドは慶應、立教のほかに、海軍医学校、海軍兵学校 (Naval Academy)、東京専門学校 (現・早稲田大学)、東京高等商学校 (現・一橋大学)、東京帝国大学 (現・東京大学) でもラフカディオ・ハーン後任の英文学教授として教壇に立っている。

ロイドは、尾崎紅葉の『金色夜叉』、徳富蘆花の『自然と人生』などの英訳書や一連の仏教研究書を刊行しており、第二次世界大戦後の 1956 年においてもロイドの仏教研究所は必読書とされていた。日本アジア協会発行『紀要』(Transactions of the Asiatic Society of Japan) への諸論稿や、日本関連の諸著も多数公刊した学者として知られた人物でもあった。

1911 年 10 月 27 日に永眠したロイドの葬儀には、教育界や宗教界から総勢 300 余人が参列して哀悼し、ロイドが異国日本で広く認知されたことが示された。



# アーサー・ロイド年譜

※網掛け部分は、ロイドの立教在任期間を示しています。

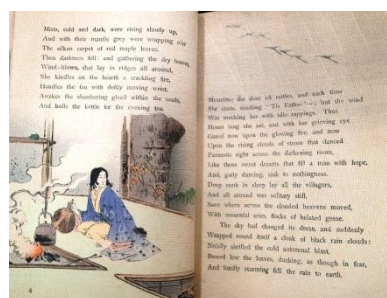
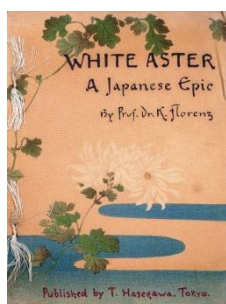
1852(嘉永 5)	出生	4月10日インド北部パンジャブ州の都市シムラで、英国陸軍士官の父のもとに生まれる。4歳の時、父が斃れ、以後母一人子一人の家庭に育つ。
1860(安政 7)	8歳	母と共にドイツに移り、シュトゥットガルトで学校教育を受ける。その後、英国ブレウツのグラマー・スクールに入学。
1870(明 3)	18歳	ケンブリッジ大学セント・ジョンズ・カレッジに入学し、その後ピーター・ハウスに所属する。
1874(明 7)	22歳	ケンブリッジ大学学士卒業。古典学は優秀な成績だった。その後、インドでの宣教を志してドイツのテュービンゲン大学でサンスクリットを学ぶ。
1875(明 8)	23歳	英国教会執事となり、翌年司祭となる。
1877(明 10)	25歳	マライア・ロウズ・テレーサと結婚、長女が生まれる。ケンブリッジ大学修士号を取得、ピーター・ハウスのフェローとなり、首席牧師とライブラリアンの仕事にたずさわる。
1879(明 12)	27歳	ケンブリッジ近くの教会の聖職につく。
1883(明 16)	31歳	英国教会系ミッション(SPG)宣教師として認められる。
1884(明 17)	32歳	5月24日、妻と三子を連れて日本に向けて出航、8月16日日本に到着する。
1885(明 18)	33歳	2月より慶應義塾で英語教育を開始する。伝道にも精力的に取り組み、来日7ヶ月後には日本語で説教を行う。
1890(明 23)	38歳	夫人の病気のため転地療養の必要から、カナダ・トロントのトリニティ・カレッジの古典・弁論学教授となるが、同地で夫人を亡くす。 ・ <i>Japanese colloquial texts with translations and notes</i> (『英和会話捷徑』)Kelly & Walsh
1893(明 26)	41歳	8月日本に戻り、慶應義塾大学文学部の主任教員となる。ドイツ語教員のファルロットと再婚する。その後1898年4月まで英文学、フランス語、ラテン語などの教鞭をとる。
1894(明 27)	42歳	米国聖公会東京伝道主教マキム、ロイドを同派の宣教師として任命する認可を要請する。ロイドは慶應で教鞭を取りつつ、東京伝道管轄区で無給宣教師として熱心に活動する。
1897(明 30)	45歳	米国聖公会所属宣教師として正式に認可される。テイング校長の後任として立教専修学校・立教英語専修学校長にロイドが任命される。 ・ <i>White Aster</i> (『孝女白菊の詩』)長谷川武次郎発行(英訳)
1898(明 31)	46歳	慶應義塾を退職し、立教学校(St. Paul's College)総理(President)に就任する。マキム主教から立教改善策の提示を求められ報告書を提出する。
1899(明 32)	47歳	文部省訓令12号により、政府からの特権を得ていた学校においては、宗教教育が禁止される。青山・東洋英和・同志社・立教・明治学院・名古屋英和の六校で反対声明を出す。ロイドの方針により、立教学校は立教学院と改称し、中学校以外の東京英語専修学校(神田)、立教専修学校、寄宿舎でキリスト教教育を行うことで、立教中学校は認可校として教育活動を行うこととなった。立教中学の学生数は210名と大幅に増加した。
1900(明 33)	48歳	立教学院で週13時間の講義を担当、学生の職業訓練を兼ねて立教学院活版部を発足させる。海軍兵学校で英語と歴史の講義を行う。九段の諸聖徒教会の牧師のほか文学活動にも携わる。
1901(明 34)	49歳	立教中学の学生数は424名となり、日本で最大のミッション・スクールとなる。日本海軍船内に図書室の創設を提案する。築地聖三一大聖堂と九段の諸聖徒教会の管理を任せられる。
1902(明 35)	50歳	立教中学校の学生数は450名となるが、家族で献身してきた神田の東京英語専修学校の経営は苦しくなる。母教会に援助を依頼するが、翌年の閉校が決まる。元田作之進が立教を去り、立教中学校校長の任務も担うこととなる。 ・ <i>Girls' English Reader</i> (『女子英語読本』)元田作之進との共著、三友書院(英文) ・ <i>Librarian's report</i> ( <i>Transactions of the Asiatic Society of Japan</i> 29 pt. III)
1903(明 36)	51歳	業務多忙による健康問題、文学と学術活動へ専念の希望、カトリック改宗問題などから、立教学院総理を4月に辞任する。同年からラフカディオ・ハーンの後任として東京帝国大学英文学教授となる。またキリスト教との接点を求めて日本仏教などの研究を進める。 <i>The Asiatic Society of Japan</i> (日本アジア協会)の会長にも就任する。
1904(明 37)	52歳	慶應で1年間修辞学を教える(非常勤)。 ・ <i>Imperial songs</i> (『御歌』)立教学院活版部(英訳)
1905(明 38)	53歳	・ <i>Gold demon</i> (『金色夜叉』)有楽社(英訳) ・ <i>Village life in Japan</i> ( <i>Transactions of the Asiatic Society in Japan</i> 34)
1907(明 40)	55歳	・ <i>The praises of Amida: seven buddhist sermons</i> (『阿弥陀崇拜』)教文館(英文)
1908(明 41)	56歳	・ <i>The wheat among the tares</i> (『毒麦のなかの麦: 日本における仏教研究』)Macmillan(英文)
1909(明 42)	57歳	・ <i>Every-day Japan</i> (『日常日本』)Cassel(英文)
1910(明 43)	58歳	・ <i>Shinran and his work: studies in Shinshu theology</i> (『親鸞上人伝』)教文館(英文) ・ <i>A birth-day book of Japanese verse, old and new</i> (『誕生日記念帖』)審美書院(英文)
1911(明 44)	59歳	3月ファルロット夫人が保養先のカナダで客死する。10月27日自宅で脳溢血のため永眠する。30日に聖アンデレ教会で葬儀が行われ、聖公会関係者ほか各方面から多くの参列者を集めた。青山霊園(東京)に埋葬される。
1913(大 2)		・ <i>Nature and man</i> (『自然と人生』)徳富蘆花著 アーサー・ロイド訳 弘学館(英訳)

※アーサー・ロイドは、ケンブリッジ大学のフェローだった時期、日本アジア協会会員だった時期など、ライブラリアンとして図書館業務にも携わっている。  
年譜：立教大学図書館作成

【立教大学図書館デジタルライブラリより】

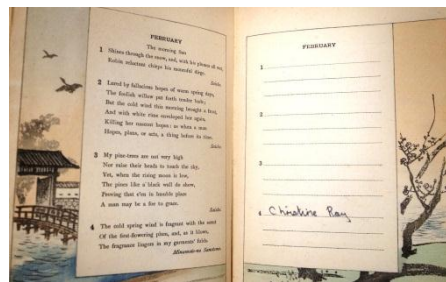
## White Aster, a Japanese epic (『孝女白菊の詩(うた)』)

活版による文字印刷に木版刷りの挿絵を組み合わせた欧文挿絵本「ちりめん本」です。印刷済みの和紙を縮緬紙(クレープ・ペーパー)のようにしわ加工してから裁断し、絹糸で和綴りにしてあります。ずっしりと重くしなやかな感触から、絹織物(縮緬)に印刷したと誤解されることもあるようですが、その高度な印刷技術は現代では再現が難しいといわれています。フローレンツによるドイツ語訳をロイドが英訳したちりめん本として、このほかに1896(明治29)年刊行のPoetical greetings from the Far East(『東の国から詩の挨拶』)があります。



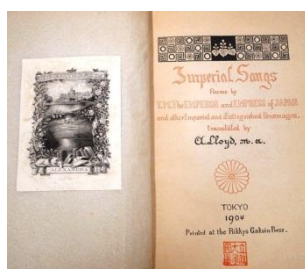
## A birth-day book of Japanese verse, old and new (『誕生日記念帖』)

洋本の体裁で、ちりめん加工していない「平紙(ひらがみ)版」ですが、日本画の木版刷りで定評のあった審美書院から出版されました。これも広義の「ちりめん本」といえるでしょう。日本の物語や詩歌に美しい挿絵を添えた「ちりめん本」は、海外に輸出されて評判を呼びました。



## Imperial songs (『御歌(ぎよか)』)

和綴じの大判豪華本です。刊行のRikkyo Gakuin Pressは、築地の立教学院で1900(明治33)年にロイドが私費を投じて苦学生の自活のために設立した活版印刷所です。



解説：立教大学図書館デジタルライブラリより

# CATALOGUE

OF

## JAPANESE BOOKS PUBLISHED

JANUARY—JUNE 1902.

The Librarian wishes to inform members of the Society not living in Tokyo that he will be glad to assist them in procuring any of these books. Also, that he will be willing to make arrangements with Students to have translations made for members at moderate charges.

Address: REV. A. LLOYD, 56, Tsukiji, Tokyo.

### I. ART.

Beisen gwadan, 米遷書談 A collection of Beisen's opinions about paintings. Publisher 三松堂 Sanshōdō. Price 60 sen.

Bungei ronshū, 文藝論集 By 上田敏 Uyeda Bin. A collection of essays on various subjects connected with athletics, literature, and arts. Publisher 金港堂 Kinkōdō.

Gahō zenshū, 雅邦全集 Vol. I. This book contains Gahō (an artist's) drawings copied from the original. Publisher 日本美術院 Nippon bijitsuin. Price 60 sen.

Hokushin Kembunroku, 北清見聞録 A sketch book on North China. Publisher 木村糸市 Kimura Kumeichi. Not for sale.

Nippon kwaiga shi, 日本繪畫史 A history of Japanese drawing. Publisher 金港堂 Kinkōdō. Price 70 sen.

ロイドが会長と図書館長を務めた日本アジア協会の紀要に掲載された、ロイドによる新刊受入図書目録 (TASJ Vol.29)



青山霊園内のロイドの墓碑  
(2014年立教学院撮影)